世界道路交通被害者の日

1993 年にロードピースがイギリス国内でスタートさせた「世界道路交通被害者の日」は、その後、ロードピースだけでなく、国際道路交通安全協会（Association for Safe International Road Travel – ASIRT）、欧州道路交通被害者連盟（European Federation of Road Traffic Victims – FEVR）、その関係団体など、複数の非政府組織（NGO）の力によって、世界各地で開催されるようになりました。

交通安全の推進では NGO が持つ絶大なる力を認識し、WHO は 2003 年 9 月、12 組織が集まる懇談会を主催しました。そして、この懇談会が、交通安全を呼びかける機関の非公式なネットワークの誕生のきっかけ、また、共同で取り組む分野を把握する場となったのです。国連ロードセーフティー・コラボレーションのメンバーとなった ASIRT、FEVR、ロードピースの 3 団体が、非公式なネットワークの他の NGO と共に、このコラボレーションを通して、被害者とその家族について考える日を広める働きかけを行ったことで、毎年 11 月第 3 日曜日を世界道路交通被害者の日とし、「交通事故の被害者とその家族を適切に認識すること」が国連総会で議決されたのです。

個人や団体が、被害者の日のイベントをどのように企画し、運営すればよいか。WHO、FEVR およびロードピースは共同で、その実用的な手引きとなる本『World Day of Remembrance for Road Traffic Victims; a guide for organizer（世界道路交通被害者の日：主催者のためのガイド）』をまとめました。この本を読めば、被害者の日の簡単な歴史がわかり、また、今までどのような活動が行われてきたか、その具体的な例を知ることができます。道路交通事故や、それが何を引き起こすのかに関心のある方は、このガイドを参考に、ぜひ世界の様々な地域で 1 年に 1 回のこのイベントを主催し、交通安全を呼びかける絶好の機会となるこの日を十二分に活用してください。